

農業経営診断について

上原三郎*

UEHARA, S. Diagnostics of Farm-management.

1. はじめに

従来行われてきた農業経営研究では研究成果を直接農家の経営改善に役立てるという点に努力が欠けていた。農家も経営調査を税務署や人に洩れるのを恐れて喜ばない風があつた。しかし今日情勢は変つてきた。農政は転換期に来たといわれ、経営研究もその蓄積を応用場面に役立てる段階まで進んできたし、農家は経営改善の方向を見定めるため経営調査研究に期待をもつようになつた。経営診断という言葉が流行語になる

*福岡縣農業試験場

うとしているのはこのような経営の内外の情勢の変化によるものである。

2. 経営診断の種類

経営診断は（1）誰が行うかで自己診断と助言診断（2）運営や計理の面の分析検討を行う内部診断と経営の基礎条件や生産手段、生産物等の有形のものについて行う外部診断（3）個々の経営について行う個別経営診断とある地域の経営の集団についての地域診断（4）経営全般に亘る総合診断と特定の経営部門についての部門診断、技術診断等が考えられる。ここでは総合診断について私見をのべたい。

3 経営総合診断の順序

経営総合診断は次の6つの段階の順序があると思う。即ち(1)観察と調査(2)検討(3)判断(4)助言(5)設計(計画)との関連づけ(6)診断表の保管と利用である。診断表はこの6つの段階の作業が順序よく適確に行われるような様式のものでなければならない。

4. 診断の基準と重点

千差万別の経営のどういう点をどう検討し、何を拠り所として診断を下すか、診断が主観的偏見にとらわれないためには経営全体を検討する必要がある。その場面少くとも経営の4つの面(プロフィール)即ち(1)経営の基礎、経営手段、資材、労働力(2)管理、運営(技術、作業)(3)経営組織と規模(4)収支、投資効果の面について検討しなければならない

い、4つの面のどこに問題があるか、そしてそれが何に原因し、どういうことと関連しているかを追究する。例えば(1)では経営手段の整備の程度や欠陥、肥料の合理的使用、労働力の利用程度(2)では作業や技術の上手下手、農繁期の切りぬけ方、技術の取入れ方(3)では作目編成や規模が経営の諸条件にうまく適合しているか(4)では部門別に或は作目別に収支計算をしてみて今後拡張又は縮小すべき部門や作目を決める。又借入資金やその償還方法についても検討する。

5. 経営診断と経営計画

経営総合診断は経営部門診断(耕種部門診断、畜産診断、……)と同時に進められると一層効果をあげるのであろう。そして経営診断を行うことそのことが既に経営設計を立てることを前提としているので、経営設計がこの次に行われねばならない作業となる。